

宇宙授業の継続と

サンプルリターンミッション (JAXA) の実施

小林 秀明 (女子高等学校教諭)

1. 宇宙授業の継続

【第9回】「インスタントラーメン 日本から世界へ そして宇宙へ！」 (平成20年6月28日)

演者：松尾 伸二氏 (日清食品 (株) 中央研究所)

場所：女子高等学校 中教室A～D

※聴講者は生徒・保護者・関係者を含め約200名

内容：世界初の宇宙食ラーメン「スペースラム」の開発に纏わる話と今後の宇宙食について。

感想：カップヌードルにあそこまで工夫がなされているとは思ってもやらず、宇宙食のお話に移る前から驚き通しでした。授業では動画やグラフを交えたスライドも大変わかりやすく、全く飽きる事なく常に楽しんで拝聴させていただきました。宇宙食の話をしているときの松尾さんの「はにかんだ」ような表情に仕事への愛情のようなものを感じ、私も将来は松尾さんのような表情を浮かべられるような仕事に就きたいと思いました。(参加者より)



【第10回】「宇宙で生活するための快適な スペース・カジュアル・ウェア」 (平成20年12月1日)

演者：多屋 淑子氏 (日本女子大学大学院 家政学部教授)

場所：三田キャンパス 北館ホール

※聴講者は生徒・保護者・関係者を含め約150名

内容：船内着の開発の話、および、これらの研究がスピノフされて障害を持った方々の衣服に応用されていることなど。

感想：宇宙飛行士のための衣服に着心地や形状を考え、それを応用して障害者の人々のための服を開発できることが凄いと思います。障害者の方が実際に作った服を着ている写真を見て、嬉しそうな表情をしていたので、これからもこの研究を続けていって欲しいと思いました。温かい長袖シャツや汗を逃すスポーツウェアは普段着として普及させ、スーツにも応用できればエアコンの使用も減って温暖化対策にもなるのではないかと考えました。宇宙から学べるものはいろいろとあることに気付かされ、楽しい講演でした。(参加者より)



【第11回】「全ての人と、星空の素晴らしさと感動を共に」

(平成21年2月24日)

演者：大平 貴之氏 (有限会社 大平技研)

場所：三田キャンパス 北館ホール ※聴講者は生徒・保護者・関係者を含め約250名

内容：子供の頃からプラネタリウムを自作し続けていること、そして、この話がドラマ化されCMにも出演したことなど。

感想：目を閉じている間、カウントとともにどんどん胸が高鳴っていき、それは「こんなに何かを楽しみに胸をふくらませたのは何年ぶりだろう」と思うほどでした。そして目を開けると、目に飛び込んで来た満天の星空のあまりの美しさに感動で涙がでてしまいました。お話も大変興味深く、身を乗り出して伺っていました。小学生の頃から1つの夢を追いつけられた大平さんのプラネタリウムへの熱意が感じられました。(参加者より)



2. 教育活動への参加

「慶應義塾 創立150年記念 JAXA 宇宙飛行士 星出彰彦先輩が語る 「Design the Future - 宇宙、そして未来へ -」に参加」 (平成20年10月13日)

場所：日吉キャンパス協生館 藤原洋記念ホール

内容：星出彰彦氏がスペースシャトルに搭乗した際に慶應義塾からペンマーク入りアルミ製そろばんと「独立自尊」の額が積み込まれた。会では、まずこれらの品々の返還式が行われた。次に星出氏による基調講演が行われ、その後、安西塾長と星出氏をパネリストにお迎えし、会場のほかインドネシア・マレーシア・タイとを衛星高速インターネット (SOI ASIA) で結びパネルディスカッション (司会：小林) が行われた。最後に慶應女子高「校内宇宙連詩」が的川泰宣氏からのビデオメッセージとともに披露された。



撮影：石戸 晋氏

「アジア生物学教育協議会第22回 隔年会議 (AABE22) で発表」 (平成20年11月22～24日)

場所：全日空ゲートタワーホテル大阪

内容：アジア諸国の小学校～高等学校までの理科 (生物) 教員で構成されているアジア生物学教育協議会に参加した。『宇宙授業』の成果を広くアジア諸国の教員に知ってもらうこと、また、今後の協力体制を築くことなどを目的に発表をおこなった。また、日本の宇宙開発の現状、教育への利用方法、JAXAとの共同研究 (サンプルリターンミッション) についても併せて報告した。将来的には慶應義塾が構築している SOI ASIA を利用した宇宙教育の交流を訴えた。

